

2018.3  
No. 39



# 佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して *News & View*

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

## 緊急支援チーム「空飛ぶ医師団」の発足について



高度救命救急センター  
センター長 阪本雄一郎

本院は、佐賀県唯一の高度救命救急センターとして、佐賀県の救急医療の最後の砦としての責務を果たすべく、24時間365日の救急患者受入れ体制を構築しています。

また、患者さんが運ばれてくるのをただ待つだけでなく、緊急の要請があれば院内に待機している佐賀広域消防局の救急車に医師と看護師が同乗し、現場に急行するドクターカーを平成23年から運用しており、平成26年からはさらに活動範囲を広げるべくドクターヘリを運用しています。佐賀県内のどこでもあっても出発から15分以内に駆けつけることができるこのドクターヘリにフライトドクターとフライトナースが搭乗し、傷病者のもとにただちに駆けつけて初期治療を施しながら病院に搬送することで、一刻を争う救急現場において救命率の向上を図っています。

こうしたより積極的な救急救命活動をさらに広げるため、佐賀市に拠点を置く特定非営利活動法人アジアパシフィックアラライアンス・ジャパン（A-PAD ジャパン）と協力し、緊急支援チーム「空飛ぶ医師団」を発足しました。

A-PAD ジャパンは国際機関「アジアパシフィックアラライアンス（A-PAD）」の日本人で、アジア太平洋地域の災害に対し、NGO・企業・政府などと国境を越えて相互に協力し連携して救助活動を行っている団体です。

今回発足した緊急支援チーム「空飛ぶ医師団」は我々医師、捜索救助チーム、救助犬で構成されており、佐賀空港に駐機している専用航空機により、日本だけでなくアジア太平洋地域の被災地にも迅速に駆けつけることができます。

72時間の壁という言葉の通り、災害発生から3日間（72時間）を過ぎると被災者の生存率が急激に下がると言われています。病院への搬送時間すらも命取りになりかねません。

よって、被災地には緊急支援チームや救助犬だけでなく、生存者に対してその場で適切な初期治療を施すことができる医師も、彼らと共にひとつのチームとして急行することが不可欠です。この空飛ぶ医師団は従来の捜索救助チームに医師が加わる、全国で初めてのプロフェッショナルチームであり、本院の高度救命救急センターにおいて日夜佐賀県の救命救急を支えている医師が参加しています。

生死の境をさまよう被災者を一刻も早く一人でも多く救命するため、日本だけでなく世界の被災地に向けてこの佐賀の地から飛び立つプロフェッショナル緊急支援チーム。それが我々、空飛ぶ医師団です。

■空飛ぶ医師団は皆さまからのご寄付によって支えられております。ご支援宜しくお願いたします。詳細はA-PAD ジャパン事務局（0952-2012900）までお尋ねください。



▲A-PAD ジャパン代表理事大西健丞氏と捜索救助チーム



▲専用航空機に寄り添う救助犬のハルクくん



▲佐賀空港で翼を休める専用航空機 (© A-PAD ジャパン)

## ホスピタルアートのご紹介



2階東病棟  
看護師長

岩橋 好子

ホスピタルアートとは、無機質な印象を与えてしまいがちな病院の白い壁や天井をアートで彩ることで、心地よい雰囲気を作り出すための取り組みです。海外では社会的認知度が高い取り組みで、日本の病院でも普及が進みつつあります。

本院では、より良い空間の中で子どもたちが過ごせるよう、病院再整備により新しくなった小児病棟（こどもセンター）にホスピタルアートを取り入れました。

アートのデザインについては、本学の芸術地域デザイン学部と地域デザイン研究科の学生さんたちに提案をしていただき、どのようなアートが病棟をより良い雰囲気にしてくれるか医師や看護師などで話し合い、「木漏れ日」をテーマに制作をしました。

こどもセンターのなかには、動物モザイクアートによる病室のサインや、森と動物たちのシルエットなどたくさんのおアートがあります。また、入り口には有田焼の陶片を使ってセンターの看板を作り、あたたかい色のライトで照らしています。



▲こどもセンター入り口



こどもセンター内は  
いろんな鳥や  
動物がいます。  
探してみてくださいね！



ホスピタルアートのおかげでやさしい  
雰囲気です

院内のほかの病棟は清潔な雰囲気の中で療養いただけるよう明るい床と壁によって清潔な環境となっておりますが、小児科のこどもたちを受け入れるこのこどもセンターは、ほかの病棟と同じ明るい床と壁をこれらのホスピタルアートで彩り、あたたかい色合いの照明で照らすことで、より安心できる心地良い雰囲気になっているのではと思います。

日々の診療だけでなく、施設環境においても、患者さんが安心して治療を受けられるよう努めてまいります。

緊急支援チーム「空飛ぶ医師団」の発足について

阪本雄一郎

ホスピタルアートのご紹介

岩橋 好子

# 診療科紹介

## 肝臓・糖尿病・内分泌内科



肝臓・糖尿病・内分泌内科  
診療科長 教授 安西 慶三

当科は肝炎、肝がん、胆嚢炎、膵炎、膵がんなど消化器系の疾患と糖尿病、内分泌、脂質異常症など全身疾患の両方を対象とする診療科です。糖尿病専門医、内分泌専門医、肝臓専門医、消化器専門医が13人在籍しています。

外来は一般外来だけでなく、NASH（非アルコール性脂肪肝炎）外来、1型糖尿病外来、糖尿病妊娠外来、透析予防外来、甲状腺外来など患者さんの特徴に応じた特殊外来を開設しています。特にNASHは聞き覚えがないと思いますが、脂肪肝の中で肝硬変や肝がんに行進する肝疾患であり、肝臓専門医と糖尿病専門医、内分泌専門医が連携した全国でも先進的な専門外来です。

入院は肝疾患だけでなく、胆膵疾患の診断治療も行い、内視鏡的逆行性胆膵管造影法（ERCP）や超音波内視鏡下刺吸引細胞診・組織診（EUS-FNA）も行っています。糖尿病は当科だけでなく手術や他の疾患の治療のために入院された患者さんに対しても安心・安全に治療が受けられるように医師だけでなく、看護師・管理栄養士・薬剤師・理学療法士・検査技師・臨床心理士の多職種チームで糖尿病横断診療班を組織し、病院

全体の糖尿病診療にあたっています。血糖管理が困難な手術例では全国でも数少ない人工膵臓を用いた手術時の血糖管理を行っています。内分泌疾患診療については下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患などほとんどの疾患の診断治療が可能であり、県内各地から紹介があります。



▲所属医師と世界糖尿病デーのシンボルであるブルーサークルを持つ肝疾患センター広報局長の「肝ちゃん」

# 平成29年度 文化コーナー

たくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。優秀作品に選ばれた方々の作品をご紹介します。また、病院ホームページや外来ロビーに全作品を掲示しておりますので、是非ご覧ください。

今回で私の担当は最後となります。永い間、ありがとうございました。  
卒業や 校舎まぶしき 千の恋 文化コーナー担当 南里 悠介

俳句（社）日本伝統俳句協会会員「玉藻」同人 木下みね子・万沙羅（選）

- 老いてなほ 今が幸せ 秋茄子 江口 信義さん
  - 残されて 独り老女の 原爆忌 香月富士雄さん
  - 予約の日 採血の朝 袖寒し 古賀 義宏さん
  - おんぶして 泣く子あやして 夕端居 古川 泰子さん
- 川柳（佐賀大学医学部附属病院広報委員会 選）
- 何気ない 声かけひとつ ありがたし 古賀 明美さん
  - 耳に入る 幼き声の 大丈夫 古賀 義宏さん
  - お互いの 介護やれやれ 老夫婦 橋爪 房義さん



## 院内緑化推進プロジェクト

### エコロジーガーデンの設置について 経営管理課

本院では、高度で安心、安全な医療を患者さんに提供するという医療の使命と同時に、患者さんへの「癒やし」や「安らぎ」を与える環境の整備にも取り組んでおります。

その取り組みの一つとして、平成21年10月から院内に「エコロジーガーデン」を導入し、院内の緑化プロジェクトを推進しているところです。この「エコロジーガーデン」の設置につきましては、各企業様からのご協賛金により運営を行っており、今回も多数のご協賛をいただきましたおかげで、継続することができました。

ご賛同いただきました皆様にはこの紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。また、この院内緑化推進プ



### ご協賛いただきました企業様名（順不同）

- |             |           |                   |
|-------------|-----------|-------------------|
| 一般財団法人栄仁会   | 佐賀ガス株式会社  | ワタキューセイモア株式会社九州支社 |
| 株式会社佐電工     | 深川製磁株式会社  | 富士通株式会社           |
| 坂井鮮魚        | 株式会社中野青果  | 松屋株式会社            |
| 株式会社大島産業    | 有限会社深川電気  | 株式会社マベック          |
| 西部特殊工業株式会社  | 株式会社竹中工務店 | ホテルニューオータニ佐賀      |
| 株式会社パースジャパン | 株式会社永池    | その他（匿名希望）         |



▲院内学級の児童生徒による作品

## 連携病院紹介

### 南里泌尿器科医院

【病院の紹介】 私たちの医院は昭和54年に開設された泌尿器科に特化した有床診療所です。平成16年に新築移転し、現在は泌尿器科専門医の兄弟2人で診療を行っています。

当院の特徴は看護師の患者さんへのかかわりが非常に強いことです。外来では最初に看護師が予診を行い、その日の患者さんの状態把握を待ち時間に行っています。排尿機能検査士や快適自己導尿指導士などの専門的な看護資格を活かした患者指導の他、女性患者さんの骨盤底筋トレーニングも看護師が率先して行っています。また、新設された腎臓病指導士の資格取得にも挑戦中です。医師と看護師、管理栄養士、事務が協力して診療所ならではの温かい医療の提供を目指しています。

### 【本院との連携の状況】

当院の外来では一刻を争う緊急患者さんに遭遇することも珍しくありません。佐賀大学泌尿器科医局の先生方にはいつでも患者さんを快く引き受けて

## 平成29年度 病院長賞

平成29年度は医療技術の向上や患者サービスに貢献した左記の職員を表彰いたしました。



写真中の受賞者の並びは氏名掲載順のとおり

- 医学部総務課 技術専門職員 立石洋二郎
- 歯科口腔外科 歯科技工士 山口 能正
- 小児科 助教 垣内 俊彦

院長 南里 正晴

頂き感謝しています。また有床診療所であることを活かし、大学病院の術後患者さんの療養からがん患者さんの終末期医療まで積極的に受け入れています。また副院長の指導のもとで医学部学生の地域医療実習にも協力しています。外来・手術見学だけでなく、大学病院では経験できない受付業務や門前薬局での調剤見学プログラムまで実施しています。

